

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
8 6	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Coronary atherosclerosis and alcohol consumption: angiographic and mortality data. 心血管の動脈硬化とアルコール摂取 血管造影および死亡データ	
執筆者	
Femia R, Natali A, L'Abbate A, Ferrannini E.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Arterioscler Thromb Vasc Biol. 2006 Jul;26(7):1607-12.	
キーワード	
アルコール、血管造影、心血管の動脈硬化	
要 旨	
<p>目的： 適度のアルコール消費は脳血管疾患(CVD)のリスク減少と関連がある。この防御作用が心血管の動脈硬化の進行度が小さいことに基づくかは立証されていない。</p> <p>方法と結果： われわれは男性 1,676 人、女性 465 人に対し心血管造影を連続的に実施した。スコア(ATS)は主要な脈管にわたる狭窄の割合(percent lumen narrowing)を合計することにより算出した。アルコール摂取は質問表によって定量化された。単変量解析において ATS は性別、年齢、CVD 家族歴、喫煙、糖尿病、高血圧、血清コレステロールと関連していた。アルコール摂取は糖尿病でないこと、低 ATS と関連していた。多変量解析では他の危険因子と独立に、アルコール摂取は低 ATS と関連していた。推定された効果の大きさは 1mmol の血清コレステロール減少に相当した。メディアン追跡期間 93 ヶ月の間、女性 37 人、男性 194 人が心臓系の原因で死亡した。Cox 回帰により心疾患死亡の正の予測因子として、男性 (ハザード比:1.7、95%信頼区間:1.1-2.6)、年齢 (ハザード比:2.1、95%信頼区間:1.8-2.5/10 年)、糖尿病(ハザード比:1.7、95%信頼区間:1.2-2.4)があった。それに対しアルコール摂取は負の予測因子であった(ハザード比:0.84、95%信頼区間:0.71-1.00)。</p> <p>結論： 選択された高リスク集団において、適度なアルコール消費は心血管の動脈硬化の減少、心疾患死亡のリスク減少に独立に関連している。</p>	